

カンボジア便り

かんぼじあ かつどう にほんじん カンボジアで活動する日本人

9月から10月にかけて、カンボジアにいる日本人の方々のお仕事を見学させていただきました。JICA海外協力隊員だけではなく、NGOで活動されている人のお仕事も紹介します。



し め り あ っ ぶ ・ ど ぼ く ・ ふ る や ま お し ご と シェムリアップ・土木・古山さんのお仕事

北海道から協力隊員として参加されている古山さんは、アンコールワットを中心とした観光都市、シェムリアップの交通課題である渋滞を解消するために派遣されました。道路交通量の調査をして、それを基に標識や信号機の設置を考えたり、道路補修の技術指導や実験などにも参加されていたりするそうです。

JAXA(宇宙航空研究開発機構)の衛星からデータを用いて、過去数日分の降水量とその変遷を計測できるプログラムを自作されるなど、専門的に活動されている様子がとても格好良かったです。全く違う分野のお話も聞くことができ、勉強になりました。

かんぼつと さつかる はやし おしごと カンポット・サッカー・林さんのお仕事



富山県出身の林さんは、大学をご卒業後すぐにサッカーの協力隊員として、カンポットに派遣されました。カンボジアのサッカーは、2年程前に日本の本田圭佑選手が監督をするなど国民的スポーツの1つです。次世代を担う選手の育成のために活動されています。

2年間、カンポットに隊員は林さん1人きりだったそう。社会人サッカーのグループにも積極的に参加されているそうで、わたたちが街中を案内してもらっている時も知り合いの現地の方にたくさん声を掛けられていました。スポーツは国が違ってもできるコミュニケーション方法の1つなのだ、と感じます。

ばつたんばん かかおふぁーむ さわだ おしごと バツタンバン・カカオファーム・澤田さんのお仕事

澤田さんは、チョコリコという日本の企業に勤めておられます。カンボジア国内ではあまり生産されていないカカオの農園を作り、農家さんの支援をしていく活動をされています。

苗を育てるところから無農薬でカカオを作っていく、というのはとても大変で数年単位の時間がかかります。カカオが採れたとしても、そこからさらにチョコレートに加工するにはまた手間がかかるそうです。しかし、それらが全てカンボジアの人々の手で出来るようになれば、お仕事も増え、収入も増えることにつながるのだろうな、と明るい未来が見えた気がしました。

